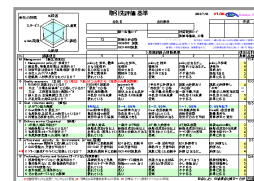


購買業務のプラットフォーム

購買エンジニア評価



The screenshot displays a complex data table with multiple columns and rows, likely representing evaluation criteria and scores for purchasing engineers. The table includes various numerical values and text entries, organized into a structured grid. The interface also features some navigation elements and a header section with a logo.



一般社団法人 日本資材管理協会

URL :<http://www.jmma.gr.jp>

E-MAIL :info_jmma@jmma.gr.jp



購買業務の 基本機能は何か？

mission

ほとんどの項目は
サプライヤが実現する

Q
C
D
S
Ec
Ev
M

1. そのモノはどのような仕様、性能 **品質** か？
2. どのようにして作られますか？ **納期**
3. いくらか、いくらであるべきか？ **価格**
4. どのような業界ですか？ **市場分析**
5. 魅力的な新製品開発に必要な情報は
6. SCM, e-commerce を活用していますか？
7. 為替, 輸入手続きは理解していますか？
8. 商法, 下請法など遵守していますか？
9. PCS の考え方 認識 活用, 開発購買
10. VE の理解 活用, グリーン調達 **ISO14000**
11. 調達先の経営状態、リスク対策、 **ISO26000**



調達エンジニアに期待する中核能力は？

色々あるが
コア・スキルは？

利益を創造する

QCDなど
を達成する

いくらで 調達すべきか？

コスト、開発購買

どこから 調達すべきか？

サプライヤと連携

どのように 買うべきか？

生産連携

デザインは どうあるべきか？

設計と連携

(仕様・図面の改良)

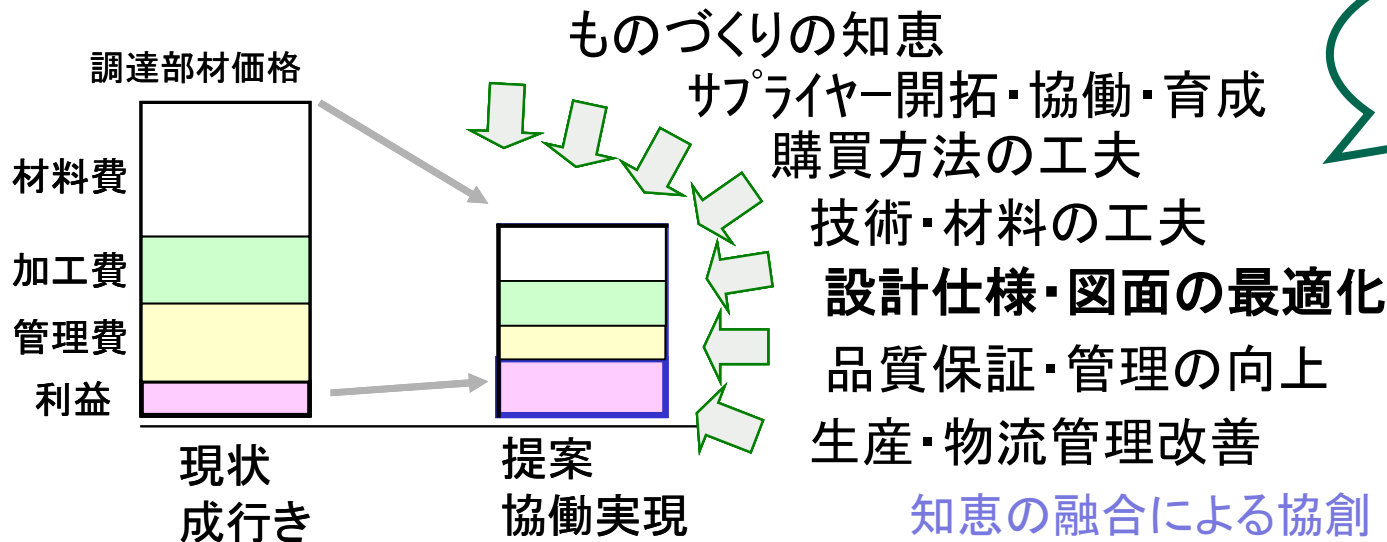


「購買」は 情報を利益に変える !

redefinition

『サプライヤに ビジネス・チャンスを提供して、
必要なQCDESを達成・向上させること』

『サプライヤの優れた技術やものづくりの知恵を活用・協働して、
製品に求められる顧客満足(機能)や感動を実現し、
自社の利益とサプライヤの利益を両立させること』



サプライヤと
連携・協創する

♪手配購買はモノを買う、開発購買は知恵を買う、価値を買う



目指す目標を どこにするのか？

target

購買があるから
利益が増える！

↓ 設計仕様 ↓ 知財活用

目指す目標

企画購買 (作るモノを決める、商品企画)

要求機能協創 戦略融合

開発購買 (使うモノを決める、VE/TD活用)

要求仕様改良 知恵融合

査定購買 (作り方を決める、原価分析し指導)

要求仕様評価 協調共有

相見積購買 (買うモノを決める、競合し、買い方も工夫)

要求仕様対応 競合

手配購買 (必要なモノをうまく買う、QCD確保、JIT対応)

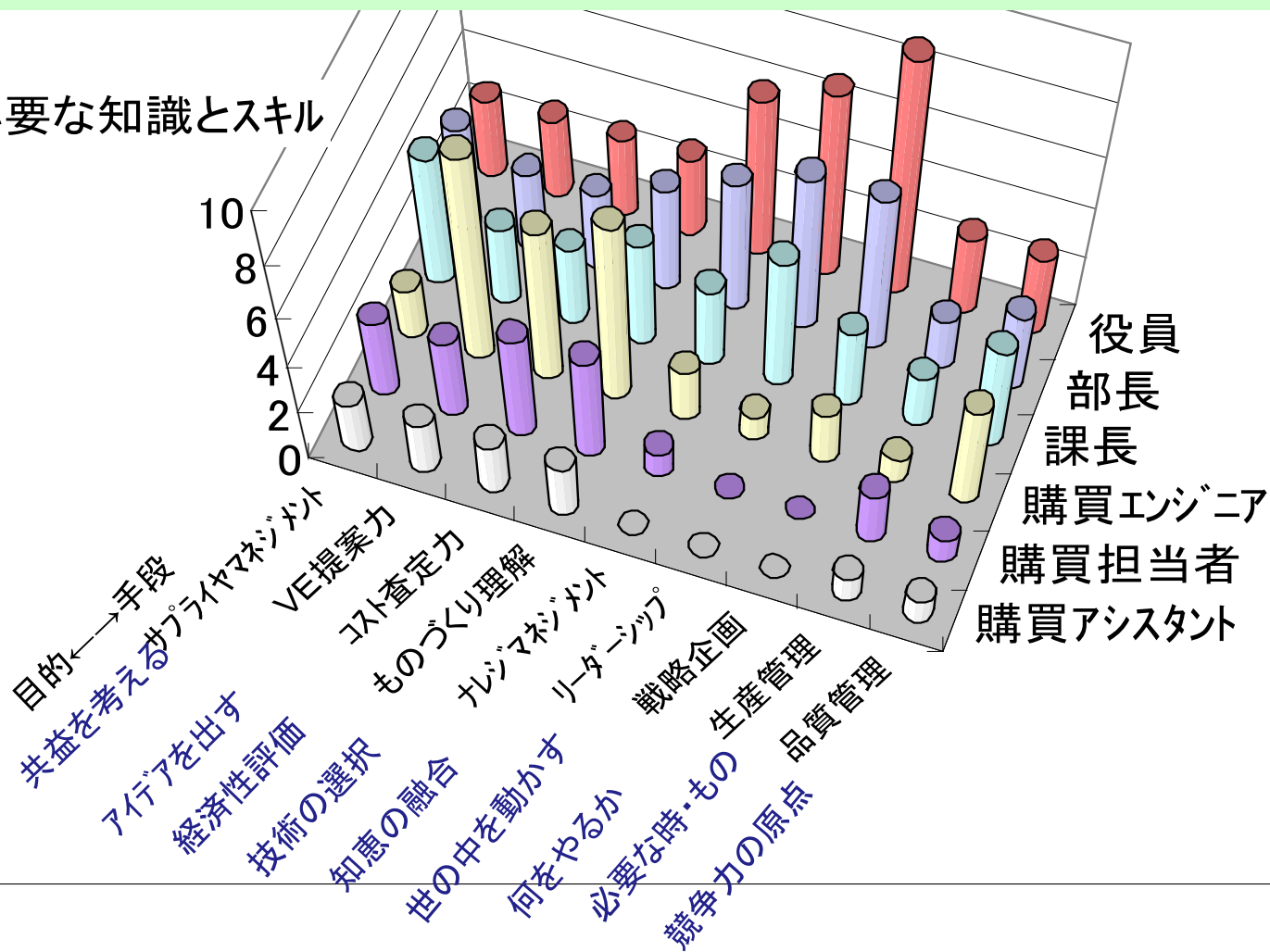
要求中継 分業



購買に求められる能力は？

Essential abilities

必要な知識とスキル





購買エンジニアの何を評価すべきか？

evaluation concept

これは設定例で
変更容易です

期待されるものは何か？

利益に貢献

KGI

サプライヤと協創力

VE提案力

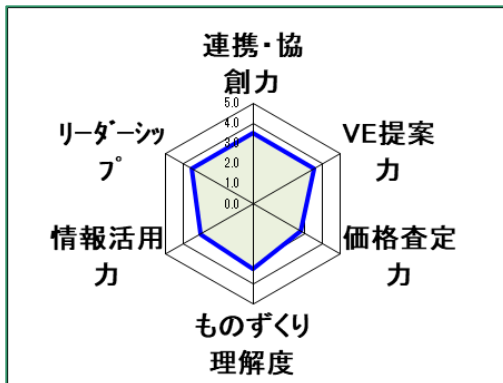
価格査定力

ものづくり理解度

情報活用力

リーダーシップ

KPI





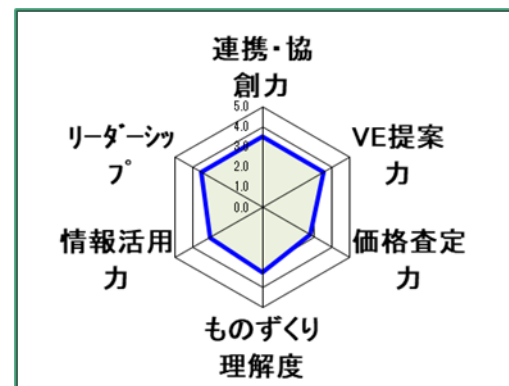
どの視点を重視すべきか？ 配点

priority

何が重点かを提示し、
評価結果の特徴 強み・弱み
見える化も あると理解しやすい

	配点例A	配点例B
連携・協創力	20	10
VE提案力	25	40
価格査定力	20	10
ものづくり理解	15	20
情報活用カ	10	10
リーダーシップ	10	10
Σ =	100	100

評価結果の見える化 例



* 評価軸ごとの配点は簡単に変更されます。

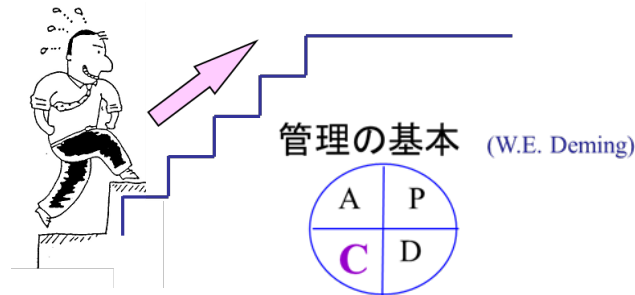
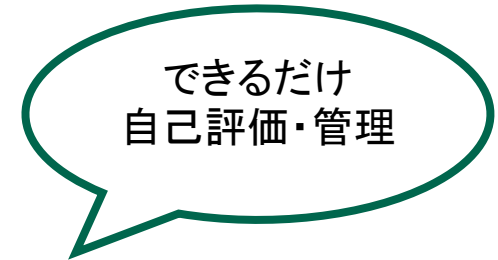


購買エンジニア評価の進め方

should be

評価シートの事前提供
最初は、上司が評価して面談するが、
購買エンジニア自身が
自己啓発管理するのが好ましい

どこを目指すのか(P・D) 再確認
結果の評価分析・討議(C・A)



購買エンジニアの能力評価		評価者		評価日	
評価項目	評価内容	評価者	評価日	評価者	評価日
1. 業務遂行能力
2. 業務遂行能力
3. 業務遂行能力
4. 業務遂行能力
5. 業務遂行能力
6. 業務遂行能力
7. 業務遂行能力
8. 業務遂行能力
9. 業務遂行能力
10. 業務遂行能力
11. 業務遂行能力
12. 業務遂行能力
13. 業務遂行能力
14. 業務遂行能力
15. 業務遂行能力
16. 業務遂行能力
17. 業務遂行能力
18. 業務遂行能力
19. 業務遂行能力
20. 業務遂行能力



購買エンジニア評価 シートの構成

Excel architecture

氏名・ID

見える化
(強み弱み)

評価・決済

評価軸
評価項目

評価点

配点
(項目の重み)

判定基準(1~5)

合計点

サブライマネジメント		開発購買エンジニアの能力評価					V3.0B	2021/9/30	Solution Provider	
リーダーシップ		氏名					評価点数	注意事項		
ナレッジマネジメント		業務概要					67	"項目評価"に5点満点で評価記入 フォーマットは変更しないで下さい。		
VE提案力		自己評価					更に向上するには 責任者コメント 署名!			
価格査定力		更に良くするには 署名								
5段階評価の判断基準										
n	評価項目	5	4	3	2	1	項目評価	合計	配点	
1	サブライマネジメント 社内製造も含めて、目標達成へのサブライマネジメント 現状のサブライマだけでは大幅CD困難 a グローバルなポテンシャルサブライマ確保・活用 b 国際調達力 c サブライマを評価査定・改善指導 d 調達戦略、サブライマ集約・開拓	グローバルにDB共有 実務にビルトイン 定期的・公開 経営直結組織で実	定期的に更新活用 材種別地域別推進 定期的・公開 全社的な取り組み	現状のサブライマだけでは大幅CD困難 IPO拠点活用 規程あり、活用 目標設定し実施	自力で情報整理 一部で実施	商社に依頼が多い なかなか進展せず 規程無し 一部で実施	担当個人ベース 劣っている 規程無し なし	4 3 3 3	14	0
2	VE提案力 図面通りでは大幅CDできない a 目標値を実現するVA提案力 b Simulation解析の活用を連携・具体化 c 事前品質検証ポイント・具体化を指示 d V.Erの継続的充実	ノウハウ集の充実・改良 常時活用・連携 データへス化・充実 目標達成Solution可能	設計部門と連携 技術部門と連携 品質保証部門と連携 折衝力研修・充実	設計との協議可能 部分的に活用 ポイント指示できる V.Er 定期的研修	VA提案できるが... 利用した事がある 過去の問題整理 VA折衝研修規程有	VA提案力なし Simulation解析認識なし 品質企画不可 動機付け困難	4 3 4 3	14	9	
3	価格査定力 グローバルなコスト査定力、目利き a 外注品の コストテーブル試算活用 b 購入品の BMS 比較評価 c 見積試算値実現の提案・現場指導 d 最新のノウハウを理解・活用具体化	DB定期更新改良 DB定期更新改良 サブライマ指導・協調 DB化し更新活用	コンピュータ化・活用 コンピュータ化・活用 エキスパート要請拡大 組織的に整備	限定して利用 主要品は整備 現場に入り込んでいる ロードマップ、トレンド DB	あるには あるが... 古いモノがある 一部分可能 部分的に理解	なし なし 指導力なし 活用力なし	4 3 2 2	11	3 20	
4	ものづくり理解 ものづくりの機械・設備・金型・工程を理解・認識。QC工程図活用した品質保証も重要。 a プラスチック材料・成型・金型 b 金属材料・プレス・機械加工・金型治工具 c 表面処理加工・組立て d 電子装置組立て	問題・改善指摘可 問題・改善指摘可 問題・改善指摘可 問題・改善指摘可	材料・金型・機械熟知 材料・金型・機械熟知 材料・治具装置熟知 材料・治具装置熟知	製造工順熟知 製造工順熟知 製造工順熟知 製造工順熟知	製造工順理解 製造工順理解 製造工順理解 製造工順理解	材料・性状は理解 種類・性状は理解 種類・性状は理解 種類・性状は理解	3 5 4 3	15	4 15	
5	ナレッジマネジメント "ノウハウの蓄積・共有化・徹底活用"が必須。情報が企業の生き残りを左右する a ネットで蓄積・共有化・徹底活用 b 電子データ化・体系化 c テーママップ標準化・活用 d 基礎データ(購入実績、資材予算、原価実績)	90%以上で実施 " " " " グループで共有	70%以上で実施 " " " " 全社で共有	50%以上全社で実施 " " " " 資材予算、実績など	各工場、部門で実施 " " " " 購入実績のみ	実施されてない 体系化無し 標準フォーマット無し 基礎データ不備	3 3 3 3	12	3 10	
6	リーダーシップ 組織のかべを取り払って、真に無限の知恵を出し合うよう リーダーシップ発揮 a サブライマ技術部門、資材部門 3者の連携 b 営業部門、技術部門、資材部門 3者の連携 c サブライマ品保部門、資材部門 3者の連携 d 部品の共有化・共通化・部品点数削減	3者の連携 相談に密接な連携 事前の品質保証 具体的な目標明確	親睦・交渉同席 組織間 事前の品質保証 で実施	3者目標に向け協調 主要顧客の声反映 サブライマ評価積極的 取り組んでいる	共同でクロスサイト作成 営業の情報一部公開 サブライマの提案受入 部分的に少々	バラバラ、責任転嫁 営業の活用されず 品保欲しいのみ 取り組み無し	4 3 3 3	14	4 10	
24項目 Copyright Kimitoshi Yagi Procurement Innovation Research							配点補正加重合計=	66.8	合計点	80 3.3 100



購買エンジニア評価 シート記入要領

サブライマ ネジメ ント		開発購買エンジニア の能力評価					V3.0B	2021/9/30	Solution Provider		
		氏名	例	評価点数	67	注意事項 "項目評価"に5点満点で評価記入 フォーマットは変更しないで下さい。					
<p>長所を伸ばし 短所を改善 更に良くするには→</p>		自己評価				上するには 責任者コメント 署名 ↓					
		5段階評価の判断基準					項目評価	合計	特徴	配点	
1	サブライマネジメント	社内製造も活用	現状のサブライマだけでは大幅CD困難	4	3	2	1	4	14	4	20
a	グローバルなポテンシャル確保	活用	自力で情報整理	4	3	2	1	4			
b	国際調達力	活用	IPO拠点活用	4	3	2	1	4			
c	サブライマを 評価査定・改善指導	活用	規程あり、活用	4	3	2	1	4			
d	調達戦略、サブライマ集約・開拓	活用	目標設定し実施	4	3	2	1	4			14
2	VE提案力	図面通り	大幅CDできない	4	3	2	1	4	14	4	25
a	目標値を実現するVA提案力	ノウハウ集の充実・改良	設計部門と連携	4	3	2	1	4			
b	Simulation解析の活用を連携・具体化	常時活用・連携	技術部門と連携	4	3	2	1	4			
c	事前品質検証ポイント・具体化を指示	データベース化・充実	品質保証部門と連携	4	3	2	1	4			
d	VEの継続的充実	目標達成ソリューション可能	折衝力研修・充実	4	3	2	1	4			18
3	価格査定力	グローバルなコスト査定力、目利き	相対的なコスト削減は古い価値観で評価	4	3	2	1	4	11	3	20
a	外注品の コストテーブル試算活用	DB定期更新改良	コンピュータ化・活用	4	3	2	1	4			
b	購入品の BMS 比較評価	DB定期更新改良	コンピュータ化・活用	4	3	2	1	4			
c	見積試算値実現の提案・現場指導	サブライマ指導・協調	エキスパート要請拡大	4	3	2	1	4			
d	最新のテクノロジーを理解・活用具体化	DB化し更新活用	組織的に整備	4	3	2	1	4			11
4	ものづくり理解	ものづくりの機械・設備・金型・工程を理解・認識。QC工程図活用した品質保証も重要。		4	3	2	1	4	15	4	15
a	プラスチック材料・成型・金型	問題・改善指摘可	材料・金型・機械熟知	4	3	2	1	4			
b	金属材料・プレス・機械加工・金型治工具	問題・改善指摘可	材料・金型・機械熟知	4	3	2	1	4			
c	表面処理加工・組立て	問題・改善指摘可	材料・治具・検査熟知	4	3	2	1	4			
d	電子装置組立て	問題・改善指摘可	材料・治具・検査熟知	4	3	2	1	4			11
5	ナレッジマネジメント	ノウハウの蓄積・共有化・徹底活用が必須。情報共有が必須。		4	3	2	1	4	12	3	10
a	ネットで蓄積・共有化・徹底活用	90%以上で実施	70%以上で実施	4	3	2	1	4			
b	電子データ化・体系化	"	"	4	3	2	1	4			
c	データフォーマット標準化・活用	"	"	4	3	2	1	4			
d	基礎データ(購入実績、資材予算、原価実績)グループで共有	全社	全社	4	3	2	1	4			6
6	リーダーシップ	組織のカベを取り払って 真に無限の智慧を出し		4	3	2	1	4	14	4	10
a	サブライマ技術部門、資材部門 3者の連携	コラボレーション実施	設計部長も交渉同席	4	3	2	1	4			
b	営業部門、技術部門、資材部門 3者の連携	商談に密接な連携	重要商談の情報開示	4	3	2	1	4			
c	サブライマ品保部門、資材部門 3者の連携	事前の品質保証企画	過去の品質問題DB有	4	3	2	1	4			
d	部品の共有化・共通化・部品点数削減	具体的な目標明確	全社的な規程で実施	4	3	2	1	4			7
24項目		Copyright Kimitoshi Yagi : Procurement Innovation Research		配点補正荷重合計=		66.8	合計点		80	3.3	100

氏名

レーダーチャートにリンク

評価点数記入

評価判定基準



評価結果の説明・討議・支援 まとめ

個人情報
セキュリティ

項目	内容	評価	備考
業務目標	プロジェクト	達成	
業務ローテーション	リカレント	達成	
キャリア	技術・経験など	達成	
OFF-JT	座学・知識	達成	
教育の機会	自己啓発	達成	

